令和 6 年 10 月 24 日

小野市議会議長 髙坂純子　様

河島三奈

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1　派遣実施日　令和 6 年 10 月 9 日（水）～令和 6 年 10 月 10 日（木）

2　派遣メンバー
　前田昌宏議員 河島三奈議員 前田光教議員 小林千津子議員 山本悟朗議員

3　派遣先及び内容
　全国市議会議長会研究フォーラム
　岩手県民会館 トーサイクラシックホール

10 月 9 日 （一日目）
13 時 20 分～
基調講演「 人口減少社会における地域の未来図 」
　第 99 代内閣総理大臣 菅義偉国会日程の都合により中止。
　ビデオレターによる挨拶。

＜内容＞
〇「地方の活力が国の活力となる」ゆえにこれを推進するために、３つの施策を実行してきた、１・ふるさと納税、２・インバウンドの増加施策、３・農産品の輸出増加地方議員の皆様には、その土地にあう施策の展開をし、地方の活力を増大するように取り組んでいただきたい。

13時25分～
説明
地方議会議員の厚生年金加入について
　全国市議会議長会 事務総長全国市議会議長会 副会長 畑中 優周
　全国市議会議長会 会長　坊　恭寿

＜内容＞
議員年金の取組の経緯を説明　各市議会での意見書採択の依頼
決議文でも良いから採択してほしい。

14時20分～
パネルディスカッション「 地方議会の課題と主権者教育　」
コーディネーター　　静岡大学教授　　井柳 美紀
パネリスト　　法政大学教授　　土山希実枝
　　一般社団法人代表理事　　越智 大貴
　　読売新聞東京本社　渡辺 嘉久
　　盛岡市議会議長　　遠藤 政幸

静岡大学教授　　井柳 美紀
地方議会の課題
１・投票率の低下
２・無投票当選の増加
３・議員の年齢、性別の偏り
対応策
・議会に対する市民の関心を高め、理解を深める主権者教育を推進すること。
・出前講座や模擬議会などを行い、議会自らが主権者教育を講ずること。

※平成２７年の文部科学省通知で、外政運動時代の方針を改め、「現実の具体駅な政治的事象を取り扱い、自ら判断することが大切」に変更されている

法政大学教授　　土山希実枝
主張→誰の為の主権者教育か、議会は主権者教育をするべきではない
行政が行う主権者教育は自己満足
議会や議員を知ってほしいは 誰の為

議会は多様な意見、価値観を集合的に意思形成として行う「場」である
「議論をする事」を学ぶ場の提供として、議会は「役割」を果たせる程度

一般社団法人代表理事　　越智 大貴
学校での社会科の授業は未だ暗記科目で、社会参加や社会科学としての民主主義を教えていない
若い世代のどうせ何も変わらないので選挙にいかない
学校の主権者教育は選挙の仕組みなどの話が多い
文部科学省の方針変更に対応して、具体的な政治課題をテーマにすると様々な方からからクレームが続出した

読売新聞東京本社　渡辺 嘉久
人口減少社会と借金依存の財政 未来に希望が見えない
「政治を知らない私が投票して世の中が変な方向にいってはいけないので選挙に行かない、怖い」と若者は思っている
「誰を選べば良いかわからない」
得られる情報がわかれば投票先は変わる

盛岡市議会議長　　遠藤 政幸
盛岡市議会の主権者教育の取組として、「高校生議会」を開催している
ねらい⇒次代を担う高校生に、選挙や、政治、また身近な地方行政への関心を高めること

Ｉ）地方議会の主権者教育について
井柳
・地方議選挙では争点が見えてこない
・学校の中立性との兼ね合いは適切か
・事務局を含めたマンパワーは足りているか

土山
・未来の市民の育成
・議会は議論する場所なので話し合う機会が大切
・何が正しいかわからない
・個人の意見が尊重されず、正しい答えを探す事を求められている

遠藤
・もりおかmirai おでかけミーティング
・議員が大学に出向き、テーマを定めてディスカッションを実施

渡辺
・議員は町に出て、色んな考えを学ぶことが大事
・「状況が変わった」ことを実感できる事は大切
・高校生議会のマニュアルを作って全国に浸透させればよい

越智
・議論して合意形成が生まれて、何か変化があるのか、という変化を感じる体験が大切
・「選挙に行こう！」 ではなく「選挙に行かない？」 という感性での教育が大切

10月10日 （二日目）
9時～
課題討議 「主権者教育の取組報告」

コーディネーター	東北大学准教授 河村 和徳
事例報告者	伊那市議会前議長 白鳥 敏明
	四日市市議会議員 諸岡 覚
	山鹿市議会議長 服部 香代
	東北大学准教授 河村 和徳

地方議会と主権者教育

東北大学准教授 河村 和徳
・昔は大人や社会に触れながら成長していたが今はその触れ合う機会が減少してきた
・理想は多様な意見があることを理解し、実践の場から学ぶ機会を持つこと
→現実は正解を教え、学ぼうとする誤った姿勢であること
・景気など活気が右肩下がりの地域では反発の声をあげるか出ていくかの選択肢しかない

伊那市議会前議長 白鳥 敏明
・高校生の議会傍聴と意見交換会の取組(市内の4高全てが対象)
　平成30年の無投票の選挙結果を受け、令和元年から実施。
　令和6年には高校生からの請願を受理

他にも意見交換会で生徒から出された意見を市議会として検討し行政側に要望
→取組の結果をフィードバック報告

四日市市議会議員 諸岡 覚
・主権者教育の取組　「ワイ！ワイ GIKAI」
従来から議会報告会とシティミーティングを実施してきたがマンネリ化が目立ったため令和４年度から ４つある常任委員会がそれぞれ若年層との意見交換会を開催し、中学校、高校、大学、商工会議所青年部など高校生議会とテーマ毎の委員会に分かれて意見交換を行い、本会議場で意見書の採択を行う
・よっかいち市議会だよりこども号
毎年７月に発行している。夏休みの自由研究の材料にされることもあり、議会への見学者（親子）の数も増加した

山鹿市議会議長 服部 香代
・なりたい職業ランキングベスト 10 入りを目指して小学校でのシチズンシップ教室を実施
１）市議会について知る
２）議員の仕事を理解する
３）選挙の意義や、投票の大切さを理解する
「ポリポリ村のみんしゅしゅぎ」という絵本を題材にして授業をプロデュースしている

実践から得た成果と課題

白鳥
・高校生から様々な意見や提案がでた
・議会も高校生のことを意識するようになった
・女子高校生から「子育て環境の改善について」の請願が提出されたが、保育園に独自アンケート調査を実施して分析した後、請願として出されたもので、内容も大変しっかりしたものだった

諸岡
・「個人としての議員」に触れ、色んな議員がいる事を高校生が知るきっかけとなった
・有権者ではない留学生との交流も勉強になった。
・若者をカテゴリーとして捉えるのではなく、個人と触れ合うことで多様な意見がでるし、主権者教育にも繋がる

服部

・45 分という短い時間の中で民主主義を伝えるのはとても難しい
・こどもたちは、強い意見が出てくるとそれに流されてしまう
・議員の仕事は議員にしか語れない
・こどもたちは議員に会ったことや、学んだことを家に帰って親に伝える、それが親の投票行動に繋がる

今後の活動について

白鳥

・中学校キャリアフェス(地域の企業や団体を知り、将来の進路を学ぶ場)に市議会として参加していく

諸岡

・個人の意見であるが、立候補体験などしてみるのもいい体験学だと考える、公の政治塾のような場所があってもよいのではないかと考える

服部

・授業ついてワークショップ方式で教育を実施するなど、複数の手段を継続して実施する事が重要

≪所 感≫

今回の研究テーマが「主権者教育」であり、どのような事例報告があるのか、楽しみにして参加させていただきました。小野市では、過去に「小学生議会」「女性議会」などほかにも大学生によるプレゼンなど、「いわゆる主権者教育」を行ってきた実績があり、各事業とも一定の成果があったとして、終了した経緯があります。よく言われる「小野市議会における女性議員の比率の高さ」も女性に対する主権者教育の一環であり、現在の女性議員の比率をもってして、他市からの視察も多い中、「成功した取り組み」なのではないかと考えます。他市の報告をみてもそのようなところはなかったと思いましたので、「評価」の前の段階では、積極的に発信していっていい、取り組みであると考えます。

今回の登壇者の中で、特に心に響いたのは、土山先生の「誰のための議会か、だれのための議員か」という言葉で、それは正に議員定数削減の議案を出したときに、市民の方から言われた意見であったからです。「議員は自分の活動が自己満足であってはならない」

との戒めを強く感じた言葉でありました。それと同じく、服部議長の「議員の仕事は、議員にしか語れない」という言葉も印象に強く残りました。自分も「議会」という組織に入り、１０年以上の年月を経て、やっと「つながり」という事象に気づけたような気がしています。なにもかも「教えて」もらえることではない。自ら「気づき」その感性を磨いてこそ、議員というある意味特殊な仕事の基本であり、自分ではなく、「他のために」粉骨砕身して「未来」に向かっていく仕事なのであると、実感するとともに、その仕事と役割について、「評価」する、されることを推進していくことこそが、「議会ができる主権者教育」なのではないかと思いました。今後はできるだけ、この「評価」という科目について、発信できるように努めていきたいと思います。

　この後、友達と話す機会があったのですが、私より年上の彼女が、事例発表の時の高校生と同じ、「何もわからん私が、選挙に行って、自分が一票入れた人が変なことしたら、怖いから、よういかんと思ってた」と発言しました。事例発表を聞いていた時は、今の若い子はそう思うのか、ある意味すごく責任感が強いな。と思っていましたが、自分より年上の友達が同じことを言ったことに大変驚きました。昔からの主権者教育が、今の現代に則していない、と実感した瞬間でもありました。このあたりに現在の投票率の年代格差や、投票率自体の低さ、の問題の原因があるように感じました。これを払拭していくには、何をおいても「議員」というもの、人に「触れる」「話す」などの「行動」が必要不可欠なのではないかと考えます。